

SNKのAt a Glance

新日本空調グループは創立以来、海外も含め、数多くの新たな空調設備を手掛けてきました。生活に身近なオフィス、商業施設、病院の空調設備をはじめ、デジタル社会を支える半導体、医薬品等の工場等の空調設備など、さまざまな分野に実績があります。

なかでも、他社に先駆けて建物内の空調設備のサイクルに注目してきました。一般的に、空調設備の耐用年数は建物の約1/3といわれています。リニューアルは、建物をそのまま利用しながら、環境保護と快適さの追求という相反する2つの課題に対して、さらなる省エネルギー化と居住性・快適性向上を行い、お客様の建物の付加価値を高めてきました。



新築

完成工事高
29.5% (33,165百万円)

日本では、1960年代を中心とした高度成長期に集中して代表的な建物が建てられており、それから約60年が経過しています。事務所用の鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造の建物に対する法定耐用年数は50年ですが、メンテナンスの状況によってさらに長期間利用できます。しかし、阪神淡路大震災や東日本大震災を経た現在、耐震性強化や時代のニーズにより建物は新たなものに生まれ変わっています。都市部では段階的に再開発が進み、区画が統合されて新たに大型・高層化したビルに生まれ変わると同時に、空調設備もそのニーズにより一新されます。これから新築における空調は、人の快適性だけでなく、環境負荷がかからないZEB(Net Zero Energy Building)化が必須になりつつあります。

快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する1次エネルギーの収支をゼロにする取り組みを進めています。



リニューアル

完成工事高
48.2% (54,072百万円)

建物やその空調設備はメンテナンスにより、良い状態を維持することができますが、時間の経過とともに劣化していきます。空調設備の耐用年数は建物の約1/3といわれており、仮に建物寿命を60年とすると、空調設備のリニューアルをする機会は20年に1度の頻度で発生します。リニューアル工事は、お客様が入居したまま実施するため、お客様の安全性を確保しつつ、工事内容・時間の大幅な制限を受けながら進めていきます。



原子力

完成工事高
7.1% (7,942百万円)

日本の製造現場を下支えしたのは、各ニーズに対応した産業空調ですが、その産業に必要な電力の供給を支えたのが原子力発電所に対する空調です。1956年に、日本初となる茨城県東海村原子炉建屋の空調の設計・施工から始まり、沸騰水型軽水炉（BWR）の建屋の空調等、原子力の空調設備を数多く手掛けています。



関係会社（国内）

完成工事高
7.2% (8,071百万円)

当社グループの国内関係会社は2社あります。新日空サービス株式会社は1991年に設立され、建築設備のメンテナンス・リニューアルを行い、「顧客満足度NO.1の総合設備メンテナンス会社」を目指しています。日宝工業株式会社は2016年から当社グループに加わり、産業施設分野の電気設備や空調衛生設備事業の再構築を行っています。日本国内で、当社グループのワンストップソリューションの一翼をそれぞれ担い総合力で皆様の課題解決に努めていきます。



関係会社（海外）

完成工事高
8.0% (8,982百万円)

当社グループの国外関係会社は3社あります。中国を拠点とする新日空（中国）建設有限公司は2003年に設立し、現在は総合建設業許可を有しており、日系企業が中国に工場を建設するサポートをしています。SNK (ASIA PACIFIC) PTE. LTD. は2010年に設立し、シンガポール、ミャンマー、カンボジアのお客様のニーズに合わせた事業展開をしています。SHIN NIPPON LANKA (PRIVATE) LIMITEDは2008年に設立した、スリランカを拠点とする唯一の日系設備工事会社で、自社工場を有しています。海外3現地法人とも当社の支店時代を含めそれぞれ40年前後の歴史があります。

